

富丘つくし幼稚園

〒006-0012

手稲区富丘2条4丁目7-6

【幼小の連携】

富丘小学校との交流では、5年生の生徒が授業の一環として来園し、園児と自由遊びを行うという交流。

年長組が富丘小学校に招待され1年生が準備をしてくれたゲームを楽しむ「ゲームランド」での交流など、年に2回程度行っている。近隣の小学校のため卒園児も多い。



『5年生との交流園庭でドッチボール』



【5年生との交流 砂場でおままごと】

【成果】

- ・多くの卒園児が入学する学校なので、卒園した後も卒園児の成長を見ることができる。
- ・小学校への訪問で来年度新一年生になる園児の小学校への期待が高まる。
- ・触れ合うことで、双方に良い影響が出ている。
- ・毎年、交流を楽しみにしている。



【1年生とゲームランドで魚釣り】



【1年生とゲームランドで金魚すくい】

【考察】

- ・小学生との触れ合いを通し、子ども同士いたわり合いながら愛情をもって接し活動することができている。双方にとって良い刺激になっている。
- ・他の小学校とも連携していろいろな関わりをもつことができると良いと思う。

札幌市立手稲北小学校

〒006-0860

手稲区手稲山口 653 の 2

【幼稚園、保育園との連携】

毎年、近隣の幼稚園や保育園と交流をしている。最近では、特に、幼稚園や保育園の園児が、円滑に小学校生活に移行できるようになることを意識して取り組んでいる。

本校の1年生が、幼稚園児の手をつなぎながら、スタンプラリー形式で校舎の中を案内している。また、幼稚園で本校のグラウンドを使用して運動会を実施している。

保育園との交流では、園児が散歩の途中に本校の運動会の練習を見学したり、校舎の中を見学したりしている。校舎の中を見学したときは、教師が案内し児童の学習の様子を見学した。

平成26年度から、小学5年生と5歳児が1年前から交流を深める「なかよしキャンプ」を実施している。初年度となる今年の参加者は、5年生が3名、5歳児が3名であった。



【グループごとに園児と活動】

【成 果】

園児と児童がふれあうことで友達が増える。また、園児が小学校の教師を知ることができる。そのことで安心感が生まれ、小学校生活に慣れることが早くなった。

園児は、小学校の設備や授業の様子をとても興味深く観察していた。小学校生活が楽しみな様子だった。

教師からは、「異校種の先生との顔見知りができる、とても心強く思う。」という感想があった。

【考 察】

案内された幼稚園の子どもたちは、次年度案内する立場になる。子どもから子どもへ「教える」「教えてもらう」という関係が、互いに心と身体を成長させ、相乗効果を生み出す。これが、小学校の運動会で表現を教え合う関係へとつながっていく。

より意味のある連携を達成していくには、それぞれの校種の独自性を理解し、それぞれの校種がこれまでに大切にしてきたこと、それによってこれまでに達成してきたことを評価していくことが必要であると考えます。

また、園児の学びのキーワードは「遊び」であり、児童は「教科の学習」である。学びの視点に違いがあるように、評価の仕方にも違いがある。園児が円滑に就学できるようなスタートカリキュラムの構築が不可欠であると考えます。

【さわらび幼稚園との連携】

本校では、さわらび幼稚園との交流を15年以上続けている。

初めの頃は、小学校と幼稚園を交互に訪問し、交流を進めていた。ゲーム的な内容で幼小の交流を行っていたが、後に2年生の生活科の学習の一環として取り組むようになった。「お店屋さんを招待しよう」ということで、幼児と1年生を招待して楽しんでもらおうという活動に変化してきた。そのため、行き来もなく、幼児のみなさんに学校に来ていただく形で学校体験をしていただいている。



【もぐらたたきの説明をしている写真】

【成果】

- ・幼稚園の子どもたちと接することで、分かりやすく教える教え方や思いやり、優しい気持ちたちが育ってきている。
- ・「してもらおう気持ち」から「してあげる気持ち」への変化が成長として見取することができる。
- ・2年生の子どもたちにとって、1年生よりも更に下の学年と関わることで、改めて内容、方法、製作と相手意識をもちながら活動できていた。
- ・幼稚園でも園の行事につなげていただいているので相互にとって有益な交流となっている。



【園児と交流している様子】

【考察】

- ・学校が中心となって進めているが時期や内容など幼稚園の先生方との話し合いを密にしていく必要がある。
- ・子ども同士の交流だけでなく、先生方同士の交流もしていくことが大切だと考える。
- ・学校でも園でもそれぞれの教育課程育課程があるので新しい活動を取り入れていくことは難しいと考える。現活動を継続しながら、幼小のつながりを深めていければと考える。
- ・年長が来校するので、新一年生になる子どもたちの様子を見ることができる。



札幌市立富丘小学校

〒006-0011

手稲区富丘1条6丁目4番1号

【富丘小学校区の幼保小の連携】

本校では、3年前から富丘小学校区内の新たな幼保小の連携に着手した。

連携の目的は、いわゆる小一プロブレムなどについて、園児の保護者や子どもの不安を取り除く事、小学校への円滑な入学・小学生の学習の場として活用できる事などである。

更に、本校では持続可能な取組を目指し、

- 小学校にとっても、保育園、幼稚園にとっても無理のない活動を行う事。
- 小学校で交流する学年を、次年度に入学してくる1年生をお世話する1、5年生とし、生活科と総合的な学習の時間のカリキュラムに位置付ける事を柱に以下の取組を行っている。

<連携の時期・内容>

- 10月・・・5年「朝遊び交流」
(富丘つくし幼稚園)
- 11月・・・1年「学習発表会演目鑑賞会」
(さより第2・つくし保育園)
- 12月・・・1年「ゲームランド交流」
(上記3園)

【成果と考察】

日常から地域の催しなどで会場や道具の貸し借りをを行っている関係もあり、3年目の連携した取組では、「連携内容の共有」がなされ、学習内容に合わせた「人の動き」が非常にスムーズになってきている。

今後は、まず、日常的な行事の情報交流を丁寧に行っていきたいと考えている。

- 年間行事予定表の送付
- 新一年生の参観日の案内の送付
- 運動会での園児の観覧席設置 など

小学校の行事に見通しをもち、その行事に気軽に参加しようと思える環境を整えていきたいと考えている。

<連携先>

- 富丘つくし幼稚園 □ つくし保育園
- さより第2保育園



【富丘つくし幼稚園で、園児と「朝遊び」をする5年生児童】



【学習発表会で1年生の演目を鑑賞する保育園の園児】



【1年生のゲームランドでお客様として交流してくれた園児】

【私立 松葉幼稚園・まつば保育園との連携】

2 年生活科 『遊びランドにご招待』

【取組の様子】

～生活科の時間に遊びランドをつくり、1年生と幼稚園児を招待する取組～

(1) 概要

2年生が小グループに分かれ、思い思いの遊びコーナーを手作りする。

始めに1年生を招待して「遊びランド」を開き、1年生との関わりを振り返って反省し、再度工夫をして、幼稚園児を招待する「遊びランド」を開く。

(2) 流れ

- ① 実施は、毎年11～12月を予定。1学期中に日程を決定する。
- ② 実施2週間～1か月前に、園児の人数や時間、控え室などについて打合せをする。
- ③ 当日は、2年生がオリエンテーションを行ってからグループ毎にお店を開く。
- ④ 園児は、自由に各お店を回る。



『ぴよんぴよんウサギ』のお店で、おすすめの品物を紹介する2年生

【私立 松葉幼稚園・まつば保育園との関わり】

松葉幼稚園は、本校の校区内にあり、保育園と併設している。そのため、入学する児童の人数が一番多い。

今年度は、上記の取組の他に、年数回の参観日を幼稚園・保育園の教諭・保育士にご案内し、ご都合の合う日に来校してもらって、1年生の学習の様子や、成長の姿を見ていただいた。

【成果】

- ・2年生は、園児との交流を通して、関わり合うことの楽しさを実感したり、自分より小さな相手に対する思いやりの気持ちをもったりすることができた。
- ・園児は、未知の場所であった小学校の校舎や教室の様子を知ることができ、また小学生に関わってもらったことで、入学への期待感を高めたり安心したりすることができた。2年生は、「ドキドキをわくわくへ」を合言葉にして活動に取り組んだが、まさに、それを実践することができたと言える。
- ・遊びランドは、始めに1年生を招待して行うので、1年生は2年生の姿を見て、関わり方を学ぶことができる。これにより、2年生へのあこがれの気持ちや、園児を招待することを楽しみにする気持ちをもつことができる。そして、2年生になったときは、自分が体験したことを生かして活動を創り上げることができる。

【考察】

- ・低学年は、校内において、自分より年下の子どもに関わる経験が少ないので、園児と関わる経験は大変貴重である。
- ・幼保小連携推進協議会を通して、担当者同士が知り合い交流しやすくなってきている。児童だけでなく、担任同士などの交流ができる場の設定も、今後検討していけるとよいと考えている。

札幌市立稲穂小学校

〒006-0034

手稲区稲穂 4 条 5 丁目 12- 5

【子ども同士の交流活動】

☆学習発表会への招待

11月26日（水）・27日（木）の

両日に行った『第28回学習発表会児童公開日』に稲穂中央保育園と手稲やまなみ保育園の両園から年長さん18名を招き、1年生などの劇を観覧していただいた。日頃一番年下の存在として生活している1年生は、自分より年下の子どもたちに立派な姿を見せようと頑張る姿が見られた。

また観覧に来た幼児たちも緊張感をもって参加し、学校の雰囲気を肌で感じているようだった。

今後こうした開かれた活動を通して、互いを同じ地域で生活する近い存在として認識させるとともに、入学への安心感につなげることができればと考えている。



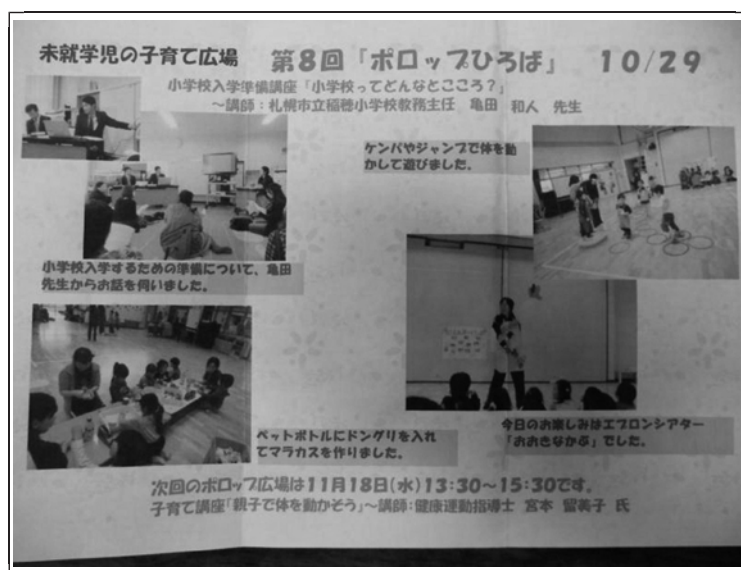
【小学校・幼稚園の連携】

☆未就学児保護者への本校教諭の講座

10月29日（水）に手稲中央幼稚園で開かれた、未就学児保護者対象の講座、『ポロップひろば』に、本校教諭が小学校入学までの準備についての座談会に参加した。

今の1年生の様子を伝えたり、保護者の質問に答えたりした。

この会で、小学校入学に対する保護者の不安や疑問に答えることで、保護者に安心感を与えると共に、小学校教諭も保護者の意識を把握することができた。



☆幼稚園・保育園の見学受け入れ

本校では、幼稚園・保育所の要請があれば、通常学級と特別支援学級のどちらの学級も保護者や園児の見学を随時行ってきた。これにより、保護者が子どもにあった教育環境を具体的にイメージできたり、学校側の入学児童の的確な把握につながったりしている。

札幌市立前田中央小学校

〒006-0818

手稲区前田 8 条 12 丁目

【① 前田中央保育園との連携】

- ・ 1 年生の保育園訪問交流
- ・ 学習発表会、しらかば祭り（子ども祭り）への招待
- ・ 合同防災訓練
- ・ 雪中運動会
- ・ 保育園訪問による子どもの引継
- ・ 運動会時のグラウンド貸与→教師間の交流
- ・ 保育園の懇談会における学校長による講演会
テーマ「小学校 1 年生の学習と生活」



保育園訪問交流で仲よく「かもつれっしゃ」をしている様子

【成果】

- ・ 「保育園児を楽しませたい！」という目的意識のもと、どの子ども主体的に取り組む様子が見られた。普段は友達や教師に頼ることが多い児童も、積極的に準備をし、当日もその子なりに一生懸命関わっていきこうとしていた。
- ・ 終了後も、心地よい疲れを感じながらも、しっかりと楽しませることができたという満足感に満ちていた。
→ 日常の学習や生活の中での自主性と活動に対する自信の高まりにつながった。
- ・ 保育園児の参加マナーがとても立派で、1 年生がよい刺激を受けていた。

【考察】

- ・ 伝統的に続いている取組で、教師サイドも見通しをもって取り組むことができている。
- ・ 運営上の細かな反省点を次年度に引継ぎ、よりよい取組にしていきたいと考えている。

【② 前田幼稚園との連携】

- ・ 幼稚園の懇談会における学校長による講演会
テーマ「小学校 1 年生の学習と生活」
- ・ 幼稚園訪問による子どもの引継
- ・ 運動会時のグラウンド貸与→教師間の交流



しらかば祭りで1年生と一緒に楽しくお店まわり

【成果】

- ・ 講演会については、学校長、教務主任、特別支援学級担任など、幼稚園の目的に合わせて人選している。保護者に対して「入学前の心構え」や「学校と保護者の連携」などについて、しっかりと伝えることができたと評価している。

【考察】

- ・ 講演会については、参加者から「よかった」という声がたくさん聞かれているだけに、もう少し多くの方に参加していただけるとよい。こういう会に参加者が少ないのは、小学校も幼稚園も抱える共通の悩みである。

札幌市立稲積小学校

〒006-0815

手稲区前田 5 条 7 丁目 1-1

【保小の連携】

- ・お隣同士ということから
前田保育園原田園長先生に学校評議員を受けていただいている。
- ・以前は、1年生がいなづみ幼稚園と2年生が発表会の交流を通して前田保育園と交流していた。いなづみ幼稚園の閉園に伴い、1年生と前田保育園での交流を行っている。（年5回）

* 6年生の総合的な学習の時間で作成したポスターを貼らせていただく。

* 入学時の引継

* 全校研授業への参観

* 保育園の御神輿活動への中休みの応援



体育館でじゃんけん汽車ぽっぽ

【成果】

- ・児童の実態（活動）を見ることができる。
- ・保育園児が学校に慣れる。
- ・上の学年の子たちを見ることで、いい影響を受ける。
- ・園児が来るということで、相手意識が芽生え、それを考えながら、活動している。
- ・先生同士が顔見知りになることで、関わりやすくなり、連携がスムーズになった。
- ・普段と違う場所に行くということで、礼儀面での意識付けになった。
- ・発表会では、お互いに見合うことで、意識が高くなる。



一緒に給食

【考察】

- ・先生方のより多く、より深い交流連携（気軽な行き来）
- ・継続することにより、お互いの要望を出しやすくなり、それを実現する方向にもっていきやすい。
- ・前田保育園から本校にくる子も多いので、一緒に学校内で活動したり、給食を共にしたりすることで、学校への不安感がなくなったり、学校生活への見通しがもてるようになる。
- ・（今年は連携2年目）今後マンネリ化も考えられるが、お互いの教員がより深い交流や話し合いをもち、新たな取組に発展することを検討していきたい。